

No. 58

2007年3月1日発行

宇治市中央図書館
〒611-0023 宇治市折居台1-1
0774 (39) 9256

宇治市東宇治図書館
〒611-0011 宇治市五ヶ庄三番割36-5
0774 (39) 9182

宇治市西宇治図書館
〒611-0042 宇治市小倉町山際63-1
西小倉地域福祉センター3階
0774 (39) 9226

と し よ か ん 宇 治



西宇治図書館
絵本コーナー

子どもと本をつなぐもの

紫式部市民文化賞選考委員 塩見 啓子

リンゴーン！ 終了の鐘が鳴ると一年生が真っ先に図書館に駆けつけてきます。低学年に人気の本は「かいけつゾロリ」や「ほうれんそうマン」。一巻返してはまた一巻と競争でカウンターに持ってきます。その横では、われ先にパソコンの検索画面に向かう子たちがいます。

わが子の小学校で図書館ボランティアに参加させてもらうようになって、子どもたちが本に向き合う様々な表情を見ることができました。本を借りていく時のわくわくした顔。目当ての本がなかった時のがっかりした顔。「この本破れているよ」とブックメイト（ボランティア）の所に持ってくる時のやさしい顔。朗読を聞く時の、キラキラ輝いた真っ直ぐなまなざし。子どもたちは本当に本が、そして図書館が好きなんだなあと感じます。

青少年の読書離れが言われて久しくなりますが、それは想像力が衰えたのではなく、物語を求める心がゲームの中で満たされたり、漫画など他の表現メディアに形を変えて生き延びているのだと指摘する専門家がいます。けれども小学生の子どもたちを見ている限り、物語との出会いはやはり本から始まると感じるので。電卓があっても計算を学び、パソコンがあっても漢字を学ぶように、それはリアルな体験があつてこそではないでしょうか。図書館特有の本の匂い、装丁の美しさ、一冊の重みや手触り、静かな空間でページを繰る音……五感から本に親しむ経験があつてこそ、子どもたちは自然に物語の世界に入れます。

その意味で言うと、現在、図書館でも書店でも、子どものために様々な工夫を凝らしたコーナーが増える中、小学校高学年から中高生ぐらいの人々のための読書空間が足りないように思います。彼らがどんなスタイルで本を読むのかは見えにくいのですが、一部の書店で映像メディアと本を連動させたり、雑誌と本を組み合わせているのが、何らかのヒントになるのではないのでしょうか。

図書館には本だけでなく、司書やボランティアといった「つなぎ役」もいます。文学に関わりを持ち、母親でもある私にとって、学校図書館にやってくる子どもたちにとって、いつまでも本好きであって欲しいという願いは、日々大きくなっていくのです。

図書館へようこそ
 利用者インタビュー
 第 44 回
 田中 仁子 さん



今回は、中央図書館をよく利用されている田中仁子さんにお話を伺いました。

* 図書館は、いつ頃から利用されていますか。

宇治橋近くの宇治公民館の2階にあった頃(当時 市民図書室)からだと思います。母に連れられて、豊

のところで本を読んでもらったことを覚えていています。

* 学生時代は、どのように図書館を利用していましたか。

学生時代(高校・大学)は、学校の図書館を利用して、市民図書館からは足が遠のいていました。大学では、大学図書館のアルバイトをしたりして勉強になりました。特に、レファレンスを通して図書館のことがそれなりに理解できたと思っています。

* 現在、中央図書館をどのように利用されていますか。

たいていはインターネットで予約をして、本が入ったという連絡がきたら、休日に図書館に本を取りに行くというパターンです。

本を借りたら、すぐに帰るようにしています。というのは、以前は図書館に行ったら、昼ご飯も食べずに閉館まで居ることが多く、よく家族にしかられました。今でも、書架に本を見に行くとき2、3時間すぐになっ

てしまうので、書架を見ないで帰るようにしています。

また、勤め先が京都市内なので、京都市と府立図書館も時々利用しています。閉館時間が遅めなので、仕事帰りでも利用できます。

* どんなジャンルの本をよく読まれますか。

主に、紀行文やミステリーが多いです。書評などで取りあげられた本をチェックして、手帳に書いておき、後でインターネット予約をしています。手帳には、予約した本も書いておきます。インターネットとアナログ、それぞれいいところを使っている感じがです。

専門書もよく読みますが、書き込みをするので購入することが多いです。人気のあるベストセラーで早く読みたいものも購入します。

* 趣味はどんなものをお持ちですか。

旅行やサイクリングです。旅行は、紀行文などを読んでいいなあと思っ

たところへ、足を運ぶことが多いです。

* 最後に、図書館に対して何かありましたらお願いします。

図書館は、やはり近くにあるといいなあと思います。歩いて行ける範囲であれば最高ですね。

インターネット予約を中心に利用していますが、個人的には、今の予約システムに満足しています。できれば、予算はインターネット関係に使われるより、本の購入にあてていただいて、もっともっといろいろな種類の蔵書を増やしてほしいと思います。

どうも有難うございました。





司馬江漢

『江漢西遊日記』

洋風画家として知られる司馬江漢が、伏見桃山は宇治見台へとやってきた。豊臣秀吉が築いた伏見城跡の一角で、その庭の跡と伝えるが、すでに一面の畑となり、ウネに梅や桃の木が植えられていたという。江漢が訪れたのは寛政元年(二七八九年)二月二十八日のこと。梅の花が今を盛りと咲いていた。小倉の沼堤、向ふ方は春日山、八幡山、遙は吉野の方金剛山を望む、左は黄檗山、宇治の方向

り
その名のとおりに、宇治をはじめ南方の眺望が利く。前日は一日中雨がふり続き、特に夜になってから雨脚が強くなったという。雨上がりの澄んだ空気のもと、巨椋池など京都盆地の広大な光景が見渡せたようだ。

あくる日は、実際に宇治の地へ

と足を伸ばす。木幡を経て、黄檗山萬福寺、三室戸寺、橋寺、恵心院と宇治川東岸の寺院をめぐったあと平等院へ。最も印象に残ったのは萬福寺だったようで「誠(に)唐きめたる処なり」とひとときわ感心している。

半月後の三月十七日、江漢は再び宇治見台へ。

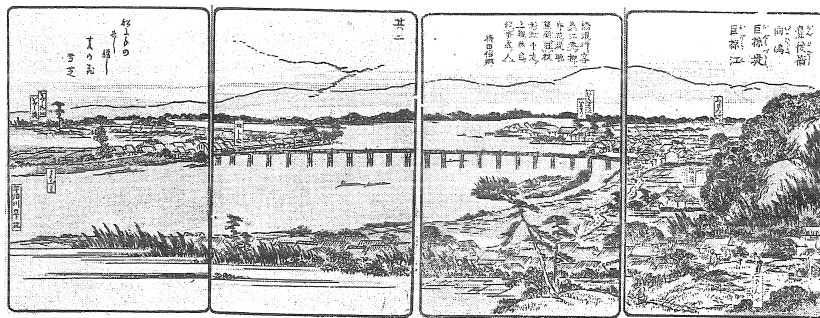
先日皆梅の花なりしに、今は皆桃の花となり、茶店あり、蜆の吸物、でんがく、酒を売る、見渡す処漸く五、六十人、皆京辺の人なり

すでに季節は変わり桃の花が主役。茶店も出て、梅見よりも大勢の人出でにぎわっていた。

今もJRや京阪電車の駅名に桃山の名をとどめる。また、織田信長・豊臣秀吉が天下を掌握していた頃を安土・桃山時代と呼ぶ。当時の政権の所在地から名づけられたのだが、注意しなければならぬのは、桃は城跡に植えられたという点だ。秀吉が伏見城にいた頃は、まだその名は無かった。また、現在山上にそびえる伏見桃山城天守閣は、昭和三九年(一九六四年)

に遊園地の一施設として建てられたものである。

『江漢西遊日記』は、平凡社東洋文庫四六一として刊行されています。中央図書館21番の本棚にあります。



伏見桃山と宇治川 『宇治川兩岸一覽』より

利用案内

- ・市内に在住、または市内に通勤・通学されている方なら、貸出券を作成すること一人十冊三週間、本が借りられます。貸出券は全館共通です。図書館で借りた本は市内のどこの図書館へも返却することができます。
- ・図書館は九時から十七時まで開館しています。休館日は毎週月曜日、第四木曜日(いずれも祝日の場合は翌日)、祝日の翌日(土・日曜日の場合は平日に振替)、年末年始です。
- ・予約された本を市内四カ所の公共施設(木幡公民館、槇島コミュニティセンター、南宇治コミュニティセンター、開地域福祉センター)で受け取ることができます。毎週一回、木曜日の午後に搬送します。
- ・図書館で借りた本は公共施設へ返却することはできません。

あとかき

少し寒さも和らいできましたが、みなさん風邪など引かれていますか。
春の花も、そろそろつぼみがふくらみはじめてきました。
これからは、卒業式や入学式など何かと忙しい時期になりますが、一日外に出て読書をしてみませんか。きっと、さわやかな一日になると思います。